

平成 22 年度 奈良県防災功労者知事表彰 一活動事例集一

たいしんまちじちかいじしゅぼうさいかい (大和高田市)
田井新町自治会自主防災会



のじしゅぼうさいかい (生駒市)
あすか野自主防災会



しゆくどじしゅぼうさいそしききょうぎかい (葛城市)
尺土自主防災組織協議会



へぐりちょうぼらんていあれんらくきょうぎかい (平群町)
平群町ボランティア連絡協議会



ももまたぼうさいだん (御杖村)
桃俣防災団



かつらぎ防災会 (王寺町)
かつらぎ防災会



目 次

<受賞団体>

- た い しんまち じち かい じしゅ ぼうさいかい 田井新町自治会自主防災会【大和高田市】・・・・・・・・・・ 1
- の じしゅ ぼうさいかい あすか野自主防災会【生駒市】・・・・・・・・・・ 7
- しゃくど じしゅ ぼうさいそしききょうぎかい 尺土自主防災組織協議会【葛城市】・・・・・・・・・・ 10
- へぐりちょう ぼらんてい あれんらくきょうぎかい 平群町ボランティア連絡協議会【平群町】・・・・・・・・・・ 14
- ももまた ぼうさいだん 桃俣防災団【御杖村】・・・・・・・・・・ 22
- ぼうさいかい かつらぎ防災会【王寺町】・・・・・・・・・・ 31

平成22年度防災功労者知事表彰受賞団体(6団体)の概要

○たいしんまちじちかいじしゅぼうさいかい田井新町自治会自主防災会 (大和高田市)

平成8年6月に結成し、今年で15年目を迎える。年1回の定期的な地区防災訓練を欠かさず行っており、災害時の迅速な情報伝達、救援活動を実施する組織体制、役割分担、防災資機材等の整備により、被害拡大の防止、軽減を図る。また、平成19年7月の集中豪雨で、多大の浸水被害を受けたことをきっかけに、平成22年1月に全域に防災情報を伝達できる災害用防災無線を新設し、住民の安全確保に努めている。なお、毎年、市・県が開催する防災研修等に、積極的に参加するなど、地域防災力の向上を図っている。

○あすかのじしゅぼうさいかいあすか野自主防災会 (生駒市)

平成12年12月に結成され、今年で11年目を迎える。毎年、消防機関等と連携し、200名を超える住民が参加し、防災訓練を実施している。今年度は、県の土砂災害に関する訓練を自主防災訓練とあわせて実施した。また5月には、講師を招いて、阪神・淡路大震災に関する講演会を独自で開催した。なお、先進地調査や防災センターへ視察を行うなど防災意識向上に努めている。

○しゃくどじしゅぼうさいそしききょうぎかい尺土自主防災組織協議会 (葛城市)

平成19年11月に結成し、今年で4年目を迎える。「助け合う心が自分を守る」「みんなの力で尺土を守ろう」「備えあれば憂いなし」の3つのスローガンを掲げ、区長の下、活動計画に基づき、防災訓練等を地域一体となって推進する。組織の防災マニュアル、避難所・医療機関等配置図を作成し、防災訓練を実施している。終了後は、各班からの反省点発表を行うなど効果的な訓練が実施されている。また、防火訓練や勉強会を行っている。災害発生時に安否確認や救助など共助活動が迅速に行えるよう、隣組単位で区内全世帯の助け合い「絆」カードを作成した。

○へぐりちょうぼらんていあれんらくきょうぎかい平群町ボランティア連絡協議会 (平群町)

平成8年9月に設立され、防災活動をはじめとする様々な活動に取り組んでいる。取組みの中で、平成16年1月から行う「竹あかりの集い」は、阪神・淡路大震災の犠牲者の冥福を祈り、震災をきっかけに培われたボランティアの輪を広げ、防災の意識を高めることを目的としている。また、子どもの時から防災意識を高めるよう学校の協力の下、小学生に対してボランティアと中学生らの手作りの防災ずきんの贈呈も行う。さらに、同事業の運営について、実行委員会形式で準備を進めることにより、町内のさまざまな団体に向けた啓発の輪を広げている。

○ももまたぼうさいだん桃俣防災団 (御杖村)

平成17年6月に結成され、6年目を迎える。年間を通じて、地区住民全員参加をモットーに常に実践を想定した訓練や講習会等を行うとともに、定期的に発行する「防災だより」を通じて、家庭の防災意識の高揚に積極的に努めている。昨年の台風襲来時には、地区内の災害時要援護者全員を迅速かつ安全に避難させるなど、その組織・行動力は、地域防災の要として欠かせないものとなっている。

○かつらぎぼうさいかいかつらぎ防災会 (王寺町)

平成17年10月に結成され、6年目を迎える。自治会内で防災会議を開催し、地域内の危険箇所の把握と自治会内で防災資源の把握に努めている。児童期からの防災に関する人材育成として子ども会との連携事業も行われている。また、自治会内の防災資機材を計画的に整備し、消火器の点検や消火訓練等の実地訓練も行っている。先進地視察として、野島断層保存館等の施設見学を行い、防災意識の高揚を図っている。

田井新町自主防災会(大和高田市)

団体の概要

項目	内容
世帯数・人口	
◇世帯数	(平成23年1月現在) 約 463世帯
◇人口	約 1,213人
◇内65歳以上人口(高齢化率)	約 185人 (15.3 %)
地域の特徴	
◇まちの特徴	・大和高田市の南東に位置し、新興住宅とマンションが点在し、西に土庫川、東に葛城川が流れている。
◇過去の災害、想定される災害	・内水氾濫等による水害

設立年月日	平成8年6月1日
設立のきっかけ	・「阪神・淡路大震災」で地域のコミュニティの大切さを実感して設立
目的・キャッチフレーズ	災害に強いまちづくり
予算規模	・85万円 (自治会からの助成金)
主な活動内容	
◇防災・防犯など一体的な活動	・安心・安全ネットワーク活動
◇防災活動	・初期消火訓練 ・救命講習会 ・町内有線放送による避難訓練 ・その他研修活動
◇その他の活動	・市の元気な地域づくり事業補助金を活用した『田井新町ふれあいプラザ事業』
主な連携先	・市役所自治振興課 ・高田消防署 ・大和高田消防団第8分団

安全・安心な「田井新町」づくり



大和高田市
田井新町自治会
田井新町自主防災会

田井新町(たいしんまち)の地域特性



<人口・世帯>

人口 1,200人
世帯数 430世帯

<地域の地理的状況>

葛城川の西側で、近鉄大阪線が地域の中を通っている。新興住宅地。

<浸水想定>

地域内は2m未満の浸水浸。日頃から浸水しやすい地域は把握できている。



田井新町自主防災会の特徴

- 田井新町自治会は平成元年に発足(大字田井から分離)。
 - 平成7年の阪神・淡路大震災を契機に「自分たちの町は自分たちで守る」という意識が高まり、平成8年6月に自主防災会を結成。
 - いざというときに助け合えるよう、日頃からの絆作りを重視。
 - 住宅密集地で防火対策に取り組む。平成8年10月に町内に50本の消火器、13年に消火ホース収納箱を設置し、町や組単位で訓練を行う。
- ※平成21年に発生した火災時に、住民が消火器で消火し、ぼやですんだ。



自主防災会の組織

自治会役員が自主防災会の役員を兼務し日頃からつながりを持ち災害時に役立つ体制作り。下表で左右の役職を兼務。

自治会		自主防災会	
役職	職務内容	役職	職務内容
総代	総括・防災・事務	会長	総括調整
副総代	防災委員長	副会長	実務・調整
副総代	男女共同参画推進	幹事	健康・食料調達
副総代	防災副委員長	幹事	各隣組状況見聞
会計	経理・書記	幹事	経理・救護
総務	地域活性化	幹事	各班連絡
総務	健康増進	幹事	調査・連絡
総務	防犯・環境	幹事	健康安全
総務	生活安全	幹事	環境・防犯
総務	ふれあい活動	幹事	生活安全
総務	女性参画推進	幹事	経理・救護
総務	会計補	幹事	救援・記録
監査委員		幹事	町内状況調査
監査委員		幹事	町内状況調査

<隣組>
3ブロック
20組(各組長)
※各組長は災害時に「初期消火」、「救出救護」、「避難誘導」、「食料調達」、「通信事務」等を担う。

<各団体等>
・民生児童委員
・子ども会
・婦人会
・老人会



水害対策

- 平成9年4月、近鉄踏切横の土庫川のバイパスができ、氾濫が緩和された。〈近鉄〉
- 平成10年以後、土庫川にかかる橋を3か所付け替え、氾濫が大きく緩和された。今後も、上流の公園の地下等に貯水タンク設置などの対策。〈市役所〉
- 平成21年「町内一斉放送設備」(スピーカー5基)を地域で設置し、緊急放送や日頃からも行事案内などを放送。〈地域〉
- ごく一部浸水する低地の住家には、住民が止水板を設置し、土のう積みにかける体制ができています。日頃からの地域のつながりによる成果。〈地域〉



線路下のバイパス工事(左下)



町内一斉放送設備



橋を高くする(右側は大雨時の水路)



浸水常襲の住家を止水板と土のうで守る

防災活動

◇防災訓練(毎年実施)

日時 平成22年9月12日(日)
9:30~11:30

場所 田井新町公園

- 内容
- ①心肺蘇生訓練
 - ②簡易たんかの実演
 - ③消火器による初期消火
 - ④消火ホースによる放水訓練
 - ⑤炊き出し訓練

◇火災警報器の斡旋

広報誌等を活用し自治会から斡旋

○煙式(6,248円⇒4,100円)

○熱式(5,933円⇒3,900円)

※実費で役員が取り付け



広報誌「田井新町だより」

年3回から5回発行。平成12年8月創刊し、平成22年10月44号発行。
 広報誌の隣組等への配布は婦人会や野球クラブ等に委託。

田井新町だより NO. 43
2010.9.1

9月は防災の月(9月1日…防災の日)

自治会主催 防災訓練

9月12日(日)

午前9時30分～11時30分
田井新町公園(5番街地内)

- ・血薦生訓練
- ・簡易たんかの実演
- ・消火器による初期消火
- ・消化ホースによる放水訓練



昨年の防災訓練の様子

災害を最小限にするためには、「自助・共助・公助」が大切です。一人一人が日ごろから防災・減災に対する意識を高め、地域社会や行政と連携することで、みんなの生命や財産、暮らしをシッカリと守ることができます。

★消火器の使用方法★



安全ピンを引抜く ホースを次に回せる ショーを振り絞る

<p>男性ふれあい料理教室</p> <p>★第1日曜日★(公民館) AM10:00-PM1:00</p> <p>◎参加費 食料実費(500円以内) ◎対象 男性の方 (一人になっても参加できます)</p>	<p>パソコン講座</p> <p>★第2日曜日★(公民館) AM10:00-PM12:00</p> <p>◎実費 300円 ◎対象 だれでも参加できます。</p>
<p>ふれあいプラザ事業</p> <p>★第3土曜日★(公民館) 午前の部 AM10:00-PM12:00 午後の部 PM1:30-PM3:30</p> <p>◎参加費 100円(おやつ代) ◎対象 子どもから大人まで だれでも参加できます。</p>	<p>ふれあいカラオケ</p> <p>★第4土曜日★(公民館) PM6:30～</p> <p>◎実費 200円 ◎対象 だれでも参加できます。 月1回カラオケに 参加しませんか?</p>

※いずれも申込は、開催日に来場ください。

10/10日

午前10時30分 田井公民館前集合 田井町山歩き北



昨年のタンク山歩きの様子

でんぱ先生



高田の方言シリーズ④

- ・がっちあり → 親友
- ・かつかつ → 正しい、丁寧
- ・あつあつ → 粘着で
- ・がてり → ついでに、次々
- ・のすっば → 空っぽ、何もなし
- ・あなけ → 半分
- ・あなん → 開る、あなかない
- ・あんでん → 壊壊して
- ・あいでり → 開れを止めての閉鎖とり

平素から住民同士の結びつきを強め、
 災害時に地域で助けあえるよう
 活動を継続させたい。

【事例】 水害常襲地域の高齢者Aさんの事例

- ①Aさんがふれあいプラザ事業(カラオケ)、バスツアーへ参加
- ②Aさんが住民と仲良くなり、地域で問題を共有
- ③防災委員長が、Aさん宅に止水板を設置
- ④住民は大雨時にAさん宅に自発的に出向き土のう積みを手伝う
- ⑤地域住民の手で、Aさんの命と財産が守られる

ご清聴ありがとうございました

あすか野自主防災会(生駒市)

団体の概要

項目	内 容
世帯数・人口	
◇世帯数	(平成22年12月現在) 約 1,867世帯
◇人口	約 4,709人
◇内65歳以上人口(高齢化率)	約 1,614人 (34.2%)
地域の特徴	
◇まちの特徴	・昭和50年から開発された新興住宅地 ・大阪のベッタウン ・大部分が持ち家
◇過去の災害、想定される災害	・過去の災害は無いが山崩れ、土石流の可能性あり

設立年月日	(平成19年9月1日)
設立のきっかけ	・「阪神・淡路大震災・新潟中越地方大地震・能登半島沖地震」の連続に地域の連携強化を目標として設立
目的・キャッチフレーズ	・みんなでつくろう安心・安全のまち「あすか野」
予算規模	・50～60万円(自治会からの助成金、大部分が資機材費)
主な活動内容	
◇防災・防犯など一体的な活動	・安心・安全なまち「あすか野」づくり(自治会、防犯協議会、民生・児童委員、自主防災会)
◇防災活動	・防災訓練(情報伝達、消火、避難誘導、救出救護、物資調達)・防災センター体験 ・救急救命訓練
◇その他の活動	・防犯協議会の地域パトロールに協賛
主な連携先	・生駒市・生駒市消防本部、北分署(地域内:自治会、防犯協議会、民生・児童委員、小学校、幼稚園)

あすか野自主防災会（生駒市）

1. 設立の経緯

本会は、「あすか野自治会自主防災会」として平成12年12月に発足し、自治会内の組織として消火訓練、救護訓練等小規模訓練を中心とした活動を行っていましたが、平成16年10月の新潟中越地震、平成19年3月の能登半島地震などの大災害が次から次へと発生する状況を目の当たりにして、災害は不意に襲ってくるもので他人事ではないと感じ、自分の命は自分で守ることも大事だが、地域ぐるみの連帯を生かした活動がいざという時の大きな力になると考え、自治会組織としてではなく1団体として活動するため、自治会役員・班長をはじめ、民生・児童委員、100人を有する防犯協議会が一体となり、平成19年8月に「あすか野自主防災会」として活動を開始しました。

2. 組織の概要

あすか野の特徴は、南北の地域にそれぞれ1丁目から3丁目までの地区に分かれており、合計6地区から構成されています。自主防災会は、各地区代表の地区長と副地区長、地区代表とは別に庶務担当役員数名、その上に南北の各担当副会長が4名、総括副会長、会長で組織しており、各役員は年1回の定例総会で選任されます。

3. 活動状況

あすか野自主防災会では、毎年5月に開催する総会で役員改選と年間活動計画を決定し、防災関連施設の視察を年1～2回、防災資機材倉庫の点検を年1回以上実施しています。また、9月には防災週間にあわせて、防災訓練を250名以上の住民の参加で実施し、消防署の指導のもと情報伝達、初期消火、避難誘導、炊き出し訓練等を行っています。なお、今年は自主防災訓練に引き続いて、奈良県による土砂災害避難訓練を実施しました。

また、講師を招いての防災講演会を開催しており、今年は「阪神淡路震災15年にあたって」と題して神戸防災技術者の会の児島雄次さんにご講演いただきました。

その他通年の活動として、災害福祉マップの作成や避難場所の周知徹底を図っています。

「あすか野自主防災会」として活動を開始して3年が経過し、地域の防災意識が高まりつつあります。今後も地域組織と連携を図りながら組織を強化するとともに、活動内容に創意工夫をして楽しみながら活動できるよう取り組んでまいりたいと思います。

あすか野自主防災会 防災訓練の様子



尺土自主防災組織協議会(葛城市)

団体の概要

項目	内容
世帯数・人口	
◇世帯数	(平成22年12月1日現在) 747世帯
◇人口	1,827人
◇内65歳以上人口(高齢化率)	356人 (19.5%)
地域の特徴	
◇まちの特徴	地区の中央部を近鉄南大阪線が通り、尺土駅は特急・急行の停車駅であり、市の鉄道の玄関口となっている。
◇過去の災害、想定される災害	市内では低地に位置し、浸水害の可能性あり。

設立年月日	平成19年11月25日
設立のきっかけ	昼間は若者の大半が大阪方面に勤務し不在であり、中高年者による防災活動の必要性を鑑み、また「阪神・淡路大震災」で地域のコミュニティの大切さを実感して設立される。
目的・キャッチフレーズ	「助け合う心が自分を守る」「みんなの力で尺土を守ろう」「備えあれば憂いなし」の3つのスローガンのもと、住民全員参加による防災活動を目指し取り組んでいる。
予算規模	50万円 (自治会からの助成金)
主な活動内容	
◇防災・防犯など一体的な活動	子どもを守る安全パトロール隊尺土 (自治会、自主防災会、各種団体)
◇防災活動	・防火訓練 ・防災施設見学 ・防災講習会 ・防災(避難)訓練 ・防災ポスター作成 ・助け合い「絆」カード作成 など
◇その他の活動	親子ふれあいハイキング、サマーフェスティバル、高齢者ふれあいサロン等各種行事に参加
主な連携先	・葛城市消防本部 ・葛城市消防団 ・地域内:尺土地区自治会、自警団、寿幸会、子供会、PTA、民生児童委員等

尺土自主防災組織協議会

遅れ馳せながら、当地も3年前に『尺土自主防災組織協議会』を立ち上げました。

尺土住民約1800人が、阪神・淡路大震災と同じ大きさの地震に襲われたとき、その被害を最小限にしたいとめるため、全住民一人ひとりが直ぐに対応出来るような組織とするため、次の取組みを行っています。

○ 1年目の取組み（防災意識の高揚）

- (1) みんなの防災意識を高めるため「**防災マニュアル**」「**尺土自主防災組織マップ**」および**チラシ**「**これだけは知っておこう**」「**これだけは覚えておこう**」を作成して全世帯790戸に配布し、住民全員参加による防災活動に取組みました。



- (2) 大震災になるほど「共助」の力が大切になることから、向こう3軒両隣、5世帯程度を1班編成とした《助け合い「絆」カード》(別紙参照)を作成して、お互いの家族の人数構成の把握を行い、震災発生時に一刻も早く状況を把握し組織的な人命救助や物資配給等の活動に役立てることといたしました。

なお、《助け合い「絆」カード》作成に当たっては、個人情報漏洩等の意見も出ましたが、常に災害発生時に備え、円滑・迅速な人命救助に役立てる目的で作成いたしました。

(3) 隣組長を含む全役員会議を定期的で開催して全役員の意識を高めました。

(ア) 住民主体の防災力向上の必要性

(イ) 自主防災組織を地域のコミュニティ活動の核にする

(ウ) 防災訓練実施に向けての検討

○ 2年目の取組み（座学から実践へ）

南海・東南海沖においてM8.7の巨大地震が発生したとの想定で、住民約200名が参加して防災訓練を実施しました。

● 第1回防災訓練の実施

訓練内容は「対策本部」「情報収集班」「避難誘導班」「安否確認班」「給食給水班」に分かれ、『防災マニュアル』と『第1回防災訓練実施要領』に基づき、各班長を中心にしたロープを使った避難誘導訓練、独居老人の安否確認訓練を行い、迷走しながらも役員から住民に至るまで、災害に強い町づくりに取り組みました。

なお、訓練終了後、各班からの反省点・改善点を発表して更なる自主防災訓練の充実に繋がりました。

最後は、給食給水班の炊き出しによる“おにぎり”と“味噌汁”で元気づけを行い、住民相互の絆を強くいたしました。



○ 3年目の取組み（見直しと活動の強化）

（1）防災施設への研修

第1回の防災訓練を更に実のあるものにするため、いま一度地震の恐ろしさ怖さを体験すべく「北淡震災記念館」と「人と防災未来センター（防災未来館）」で研修し、命の尊さと生きることの素晴らしさを実感していただきました。

（2）第2回防災訓練の実施

第1回の防災訓練に加え「防災無線」を活用した訓練内容とし、避難の状況、建物の倒壊、負傷者の救出状況等、情報交換を本部と各班が行い、連携を密にした直ぐに対応の出来る訓練内容といたしました。

また、救護訓練の一環として、地域内の専門医による“救護方法”の講演を受けました。



（3）自主防災倉庫の新設

災害発生時に防災活動をスムーズに行うため、それぞれの活動に必要な資機材・応急医薬品・水・食料等の備蓄が出来るよう拠点の準備に取り掛かりました。

○今後の課題と対策

当地は、大都会「大阪」への通勤圏内にあり、若者らの大半は昼間不在の状態にあります。もし昼間大地震に襲われたら「中高年者」でどのような活動がどれだけ出来るか難問が残されています。そのためには地域の医院や店舗・企業との「災害時協力体制」の構築や、活動のために最低必要な要員配置計画の作成も急がねばなりません。場合によっては「中高年者と女性による消火隊の結成」も真剣に考えねばならないことになるかもしれません。「尺土自主防災組織協議会」の役割はますます重要になってくることが予想されます。

以上で発表を終わります。 ご清聴有難うございました。

平群町ボランティア連絡協議会(平群町)

団体の概要

項目	内容
世帯数・人口	
◇世帯数	(平成22年11月現在) 約 7,762 世帯
◇人口	約 20,347人
◇内65歳以上人口(高齢化率)	約 5652人(27.91%)
地域の特徴	
◇まちの特徴	平群町は、西の生駒山地と東の矢田丘陵の間は竜田川が北から南へ流れる盆地で、面積は23.90平方キロメートル「たみごも平群の山」と記紀や万葉集に歌われた山の起伏は、自然環境の美しさを示しています。 はやくから文化が開け、武内宿禰を祖とする古墳・奈良時代の有力な豪族・平群氏が本拠地としたところであり、聖徳太子の創建と伝えられ、国宝信貴山縁起絵巻のある信貴山朝護孫子寺、役の行者の修験地で知られた鳴川千光寺など40寺院、22神社、古墳64基と名所・旧跡が数多くあります。 大阪への通勤圏として、丘陵地の住宅開発が進み、人口増と自然環境、特産物の花卉や野菜・果樹の振興など、「ふるさとへぐり」のまちづくりをしている。
◇過去の災害、想定される災害	・山崩れ、土石流の可能性あり。
設立年月日	平成8年9月1日
設立のきっかけ	平群町内のボランティア活動相互の連絡、情報交換の推進を図り、社会福祉の向上に役立つことを目的として14年前に設立され、上記の目的を達成するための事業に取り組んでいる。
目的・キャッチフレーズ	「竹あかりの集い」は、阪神淡路大震災の犠牲者の冥福を祈り、震災をきっかけに培われたボランティアの輪を広げ、防災の意識を高めることを目的としている。また、子どものうちから防災意識を高めてもらえるよう、学校協力のもと、小学生に対してボランティア手作りの防災ずきんの贈呈もおこなわれている。
予算規模	・約30万円(共同募金からの助成金、ボランティア協議会予算)
主な活動内容	
◇活動	竹あかりの集い
◇今年度の活動	・防災講習会「家具の転倒防止」・防災体験訓練 起震車煙中体験など ・救命講習会 ・炊き出し訓練・ 式典・ミニコンサート ・ボランティア広場・ホームページなどによるの広報活動
◇その他の活動	防災ずきんづくり
主な連携先	町、教育委員会、社会福祉協議会